

Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1993~1994年度クラブ目標 “出会いを大切にしよう……例会で、みんなが、待っている”

第152回 例会報告 (12/8)

司会者SAA 須藤 起雄

◇点鐘 会長 横倉 舜三

◇ロータリーソング「我等の生業」
ソングリーダー 吉沢 洋景

◇お客様紹介 会長 横倉 舜三

小川 一夫様 (東京多摩RC)

菱田 忠士様 (卓話講師)
(三菱化成生命科学研究所)

朝倉 泰隆様 (”)

杉山 英巳様 (多摩公証役場)

◆ 会務報告 会長 横倉 舜三

本日理事会を開催いたしましたので、ご報告をいたします。

1) 会員候補者の推薦、承認について

次の2名の会員候補者の推薦がありましたので理事会では承認いたしました。

伊藤 英也 (株)ブックセンター代表取締役

「職業分類」 書籍販売

「推薦者」 赤尾会員

杉山 英己 多摩公証役場

「職業分類」 公証人

「推薦者」 田中会員、小城会員

2) 昨日は高村 弘 会員の母堂葬式には多数の会員が会葬いただきましてありがとうございました。

◆ 幹事報告 幹事 北村 幸彦

1) 例会臨時変更のお知らせ

東京多摩ロータリークラブ

平成5年12月21日(火) 忘年クリスマス例会

時間 午後 6:00~

場所 御殿山 日本閣

12月28日(火) 定款による休会

平成6年 1月 4日(火) 「定例会」

東京狛江多摩川ロータリークラブ

平成5年12月15日(水) 年忘れ家族会

時間 午後 6:00~

場所 調布クレストンホテル

12月29日(水) 定款による休会

平成6年 1月 5日(水) 定款による休会

2) 年末ご支援のお願い

「東京多摩いのちの電話」

電話相談活動を行っているボランティアの皆さんを支えるための資金援助を行っておりますのでご協力をお願いしたい。

委員会報告

◆出席委員会 委員長 遠藤 二郎

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本 日 報 告	52	46	4	2	96.15%
前 回 訂 正	52	45	4	3	94.23%

メイクアップ

伊神 稔 (12/7 大井)
中山 恒武 (12/7 多摩)
関岡 俊二 (12/2 山の手)
横倉 恒雄 (12/7 多摩)

欠席届出者

小島 周二郎、小坂 一郎

欠席者 なし

◆親睦委員会 委員 村上 久

★★★★★★★★★★
ニコニコBOX
★★★★★★★★★★

小川一夫様 お世話になります。
橋口 洋三 12/2スクラッチ会でベスグロ、準優勝になったので
村上 久 今年もわずかになりました。
遠藤 二郎 久しぶりにニコニコ
田中 實 いそがしくて
萩生田茂夫 昨日誕生日カードを頂戴致しました。大変若くなりましたので有難う御座いました。チナミニ58才です。
吉尾警太郎 今朝5時起床、浅草吉原にいったり参りました。
小林 和夫 先日ノゴルフコンペデスバラシイショーヒンライタダイタノデ
赤尾 恭雄 例年のことながら、私にとって忙しい季節になりましたが、寒さに負けず頑張ります。
藤本 吉文 菱田様、朝倉様、ようこそ、講話楽しみです。
松原 健 日中経済技術交流センター(JETEC)の会員として、登録されました。ガンバリマス。
佐伯 和廣 よろしく
北村 幸彦 2名の新入会員候補が理事会で承認されました。更に増強に御協力を

風間 茂穂 若々しい新卒学生を採用できて
宮本 誠 もうすぐクリスマス

以上 合計 26,000円

サインバイノウ募金 17,000円
(計176,500円)

◆ロータリー情報委員会

委員長 赤尾 恭雄

「ロータリー豆知識」

- 1) 例会の取消。
- 2) 報道機関、宗教および外交官には会員数に制限を設けない。

「国際大会について報告」

現在 2名の枠が空いているので、ぜひ次年度の役員候補の方に出てほしい。

◆国際奉仕委員会

委員長 大松 誠二

モンゴルからの看護婦さん4名が明日到着します。1か月の滞在期間中に例会、クリスマス・パーティーにも出席していただきます。皆様引き続き御協力をお願いします。

◆クリスマス懇親会について

親睦委員長 吉尾 警太郎

登録締切りは本日まで。皆様は全員登録ですが、ご家族の御名前を事務局まで。今年はモンゴルのチャリティバザーを大いに盛り上げたい。品物の搬入は15日に、生の物は当日。

◆視覚障害者のゴルフ練習にご協力を

吉尾 警太郎

多摩の視覚障害者の会より、3~4名のゴルフの練習に手をかしてほしい旨要請があり萩生田会員の協力を得て、本日第1回の練習があります。Aクラスの方2~3人御指導の協力を。

前回永田広報委員長よりご報告の英文「ロータリーの友」11月号に記載された「エンピツとノートによせる期待」(田中会員寄稿)の全文です。ご一読下さい。

Hopes in Pencils and Notebooks

Minoru Tanaka(Tokyo Tama Green)

We had heard that Mongolian children don't have enough school supplies, and can't get their school work done properly because of that lack, so someone came up with the idea of donating those supplies.

The international service committee proposed getting the entire membership to go along in assisting with this plan and having Soroptimist International of Tama, with which our club has a cooperative relationship, participate. We also decided to have members make donations and to have the *Tama New Town Times* promote the campaign and request all Tama citizens to help us out in our effort. We set up collection points in all parts of the city, which were deluged with cash, notebooks, pencils and other items.

In May, representatives of Tama Green Rotary Club, Soroptimist International of Tama and the *Tama New Town Times* took a list of the good-will donations to the Mongolian Embassy and presented it to the ambassador, Mr. Daramyn Yondon.

Our discussions with the ambassador were conducted through Mr. Pantiin Ganhuyag, the commercial attaché. He told us that Mongolia is suffering shortages in almost every kind of material, is unable to import any goods and is appealing for aid of every type. He also told us that the Mongolian people are extremely enthusiastic about learning

the Japanese language and that Mongolian children are hard at work studying Japanese in school.

We told him, "The children of Tama have played a great part in this effort, and would be overjoyed if it provides an opportunity for them to exchange pictures and compositions with the children of Mongolia." The ambassador was moved by this and promised, "I'll send word to Mongolia in hopes that everything will be accomplished by the beginning of the new term in September."

It is our hope that these events will lead to an exchange of friendship between the children of Japan and Mongolia. Heating Equipment Sales "Translated from the January 1993 issue of the Japanese version of *The Rotary-No-Tomo*"

先週幹事報告致しました、副田景子さんからの手紙です。皆様からも彼女に手紙を出して頂ければ幸いです。

北村 幸彦

拝啓

シンガポールは朝夕いくらか凌ぎやすい日々が続いております。その後ごぶさたいたしましたが、いかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

さて、来新いたしまして、はや5ヶ月が過ぎようとしております。ご連絡がかなり遅くなりまして大変申し訳ございません。父からも叱られてしまいました。

学部長からの課題論文も無事に提出致しまして(5か月間もの間かなりの量の文献を前に、図書館にこもりっきりの生活が続いておりました。やっと3週間前に終了したところ。)、来週から新学期が始まり、3週間後には大学院の本格的授業に入る予定です。国際ロータリーの方にも最終資料を提出出来ることと思っております。

ロータリークラブに於ける活動は積極的に参加しております。7月にホストクラブでの紹介、8月にはスピーチ(卓話)、10月にはマレーシアのジョホールバルにおいてのコンフレンス(会議)に他国の奨学生達と参加してまいりました。他国の奨学生達ともかなり親しくしており、またシンガポール代表生とも色々活動しております。シンガポールの代表生の中には、たまたま昔JICAのプログラムで一緒だった人にも会い、人と人とのつながりにはつくづく驚いてしまいます。他国の奨学生は主にアメリカからです。(計4名)

今までの授業科目を紹介致しますと、1)多民族国家における政治 2)マレーシア史に於ける事件および問題 3)民族関係論 4)シンガポールのマレーシア社会 5)マレー語となっております。こちらの大学のカリキュラムは日本とは大分異なり、各授業は2回に分かれており、1回は大教室での講義1時間、もう1回はゼミ形式で討論形式に成っております。またこちらの大学は3年間で4年生にはトップの10%しか進めないようになっております。2)はその4年生の授業で今回特別に参加させてもらったのですが、これからのエリートの中

のエリートとあってやはり勉強量が違います。良い刺激になりました。

忙しいとは言え、毎週末は友人宅(マレー家族)にホームステイしにいており、マレー文化を生で体験しております。

なにはともあれ、充分こちらの生活にとけ込んでおりますので、ご心配なさらないで下さい。食べ物は美味しすぎて困っております。激辛料理に私のデリケートな舌も慣れてしまいました。

勉学の方はかなり大変ですが、充実した日々を過ごそうと頑張っておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

多摩グリーンロータリークラブの皆様にくれぐれも宜しくお伝え下さい。

なお、こちらにいらっしゃる際には、ぜひご連絡下さい。

まずはご報告まで。

敬具

1993.11.18

(新住所) BLK 181 PASIR RIS ST. 11
#02-16 SINGAPORE 1851
TEL (65) 583-5216

副田 景子



卓 話 (12/1)

新井 美代子様

【お茶と言えば紅茶】

紅茶はお茶の葉をしおれさせ、揉んで発酵、乾燥させたものです。

できた茶葉の色は褐色、または赤みのかかった黒っぽい色で、熱湯に

いれると、赤橙色を呈します。芳香があり、味は心地よい渋み、こく、若干の甘み苦みをもっています。

美味しい紅茶とされるのは、香りが芳醇で、後味のよい苦みをもちこくがあり、輝くような透明な紅、またはオレンジ色をしているものです。日本では、お茶と言えば緑茶をさしますが、世界ではお茶といえば紅茶のことになります。それは全世界で生産されるお茶(年間約260万トン)のうち80%が紅茶になっていることでもわかります。

【お茶の木】

紅茶も緑茶もウーロン茶もお茶と名のつくものはすべて同じお茶の木から作ることができるのです。

お茶の木は中国雲南省が原産と言われるツバキ科ツバキ属の永年性常緑樹です。学名はカメリアシネンシスといい、温帯から熱帯地方に分布し、可憐な小さい白い花をつけます。

お茶の木には大別すると、アッサム種と中国種があり、紅茶に適しているのはアッサム種で、中国種は緑茶向きとされています。そこでお茶の木から製法の違いで、緑茶やウーロン茶、紅茶ができるのです。茶の芽や茶の液汁に含まれている酸化酵素の働きを活用するのですが、完全に発酵さ

せたのが紅茶。発酵させずに蒸すことによって、この酸化酵素の働きを止めてしまって作ったのが緑茶(日本茶)。そして発酵を途中で止めたものがウーロン茶です。

17世紀半ばのことで、1662年ポルトガル王家のキャサリンがイギリスのチャールズ2世のもとに嫁ぐ際に持参したのです。

当時お茶はとても高価なものでしたので、イギリスでは200年という長い年月をかけて、王侯、貴族階級、そして上流階級、さらに中産階級へと広まっていきました。そして19世紀のヴィクトリア女王の時代には、一般庶民階級の間にも広まり、英国の生活文化として定着致しました。

英国民のティーという意味を込めて「ヴィクトリアン、ティー」とも呼ばれています。「ヴィクトリアン、ティー」には3つの基本的な考え方があります。

- ◎ティーは正しく入れなければならない。
- ◎ティーの食べ物豪華であるべきである。
- ◎ティーのテーブルセッティングは優雅にセンスよくすること。

この精神に基づき、上流階級から貧しかった一般の人々までが、それぞれの生活の中で、できる限りの優雅さを保つ努力をしながら紅茶を楽しむようになったのです。

英国では一杯の紅茶のことを「ア、ナイス、カップ、オブ、ティー」と言ひまして、日常生活の中でなくてはならないものになっています。

英国人のティータイム

◎アーリーティー(ベッドティー)

朝の目覚めの一杯です。19世紀の中産階級以上の人々は召使に寝室まで運ばせて、朝食も兼ねていました。現在でも夫から妻へ、愛情の表現として、これを習慣としている家庭も結構あるようです。



◎朝食(ブレイクファースト)

朝食には紅茶が欠かせません。基本的にはカリカリのトーストとジャム、ベーコン、卵、フルーツなどを頂きます。

◎ティーブレイク(イレブンジズ)

朝の慌ただしい一時の後、または仕事の手をちょっと休めて、気分転換に飲む紅茶です。

◎ミッドエイ、ティ、ブレイク

午前の休憩と同様に「午後のおやつ時」の休憩です。(この時は紅茶かコーヒーもよく飲まれています。)お茶うけはクッキーやビスケット程度の簡単なもの。

◎アフタヌーンティー

日曜日とか土曜日など女主人が在宅すると言う「特定の日」の午後のお茶会です。気分的にも一番くつろいだティータイムです。

社交を目的とした特定の日々の午後4時頃に始まる最も優雅で豪華なお茶の時間です。19世紀半ばにイギリスの7代目、ベッド・フォード侯爵夫人の「アンナ・マリア」という方が夕食までの間の空腹に耐えかねて、午後の5時頃に紅茶を飲み、軽食をとったことが始まりです。当時は1日2食で、しかも夕食は午後9時でした。これが貴族や上流階級の間を広まり、アフタヌーン・ティーという習慣になりました。

◎ハイ・ティー

イギリスの工場地帯や農村部、それにスコットランドに伝わる「夕食」のことで、今日まで続いてきています。元来は、午後6時

頃作業を終えて帰宅した男達と子供のためのもので、テーブルに座ってミート(肉類)中心の献立をとり、飲む物はティーに限られていたことから、別名を、「ミート・ティー」といいます。

ハイ・ティーの語源は小さい子供の食事用の椅子で「ハイ・バック・チェア」と呼ばれる物の「ハイ」からきたものです。現在ではコンサートや、観劇に出かける前にとる軽い食事も兼ねたお茶の時間をいうことが多いようです。

◎アフタヌーン・ディナー・ティー

夕食やお休み前の一時をくつろいで過ごします。この場合、薄いミルクティーなどで、体を暖め1日の疲れをいやします。時には紅茶にブランデーやウィスキーを入れて飲まれてもよろしいでしょう。

この様に紅茶は英国人のライフスタイルの一部となっておりまして、1日に何杯も紅茶を楽しみます。



東京多摩グリーンロータリークラブ



会長：横倉舜三 副委員長：森田舞子
幹事：北村幸彦 委員：海野栄一・奥木博勝・吉沢洋景
会報委員長：小島周二郎 小坂一郎・佐伯和廣

※例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤバンケットルーム

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30